



## 中間テスト終了 3年生はいざ! 第1回学習の診断へ!

体育祭明けの5月28日(火)、29日(水)に、今年度初めてとなる定期(中間)テストが行われました。1年生にとっては、中学校入学後初めてであり、テスト期間中は、早く下校する日があったり、数時間連続してテストを受験したり、テスト後に一斉に提出物を出したりと、初めてのことが続いた日々だったと思います。

1学期中間テストは、試験範囲が狭くて比較的学習が進めやすく、どの学年でも高得点が取りやすいという傾向にありますが、実際の子どもたちはどうだったでしょうか。学級日誌のコメント欄を見ても、「ばっちりだった。自信があります。」「うまくいかなかった。期末は頑張る。」などの、悲喜こもごもの感想が並んでいました。

それではここで、定期試験の意義について改めて振り返ってみましょう。定期テストは、それまでに授業を通じて学んだ知識・技能や思考力・判断力・表現力等が身に付いているかを確認する場。つまり、テストで結果が出ない場合、「普段の勉強」がうまくいっていないとも考えられます。普段の勉強とは、すなわち「予習→授業→復習」というサイクルのこと。このサイクルがうまく定着すると、効率よく学習した内容を蓄積でき、定期テストで高得点が狙えるようになります。

	1日目			2日目	
	1校時	2校時	3校時	1校時	2校時
1年	数	社	国	理	英
2年	国	英	理	社	数
3年	理	数	社	英	国

【今回の中間点テストの時間割】

このことに関連して、次のようなことがありました。テスト期間中の朝の自習(8:05~8:20)の各教室の様子を参観していたところ、各学級では、平均5~10名程度の者が、本来家庭で行うべき宿題を学校で仕上げようとしている姿が見られました。中には、解答を赤ペンで一生懸命書き写すだけで、到底「間違い直し」とは言えない「学習もどき」に時間を費やす光景も見られます。もしかすると、家庭で十分な学習時間が確保できていないのかもしれない。



これらを踏まえ、どの学年の子どもたちにも言えることは、1年間の早い時期に「学習の習慣」を再構築するとともに、「学習時間を生み出す努力」が必要だということです。実は、私たち大人でも、「時間がない」と口癖のように言う人がいます。しかし、よくよく振り返ってみると、無駄な時間に溢れていたり、作業効率が悪かったり、仕事がルーティンワークになっていないがために、生活リズムが毎日のように変化して仕事にむらができたりと、様々な要因がありそうです。

さて、今回のテストに向けたお子様の家庭での時間の使い方はいかがだったでしょうか。各テストの結果と家庭学習の状況を照らし合わせ、できていることや成果を認めながら、まずは、学習に対する良習慣が身に付くようなお声掛けをいただければ幸いです。学校でも、単に子どもたちを叱咤激励するだけでなく、学習の意義や卒業後の進路決定等の目標を示しながら、引き続き、子どもたちの学習習慣の形成に努めてまいります。

3年生は、3日後の6日(木)が「第1回学習の診断」です。受験に向けた広い出題範囲に対応する力が試されるテストがいよいよスタートします。「学習の診断」や入学試験は、まさに日頃の学習への向き合い方が問われる試験です。また、全学年とも、早3週間後には期末テストが迫っています。今回の中間テストへの向き合い方の成果と課題を踏まえ、授業の受け方、宿題や家庭学習の改善を図れるようなご家庭での後押しを、引き続きお願いいたします。



【テスト問題の解説を聞く子どもたち】



【第1回学習の診断に向けて過去問を解く子どもたち】